

【創作舞踊部 予選講評】

- 発表された作品から、つけたタイトルを読み取ることが難しいと感じるものが多かったです。本選でタイトルは変えられませんが、作品を練り直す事は出来ます。創作部門はダンステクニックの勝負ではありませんが、やはりダンスで教わってきた、些細な『間:マ』の取り方で伝え方は変わりますので 今一つ 練り上げてきて下さい。こだわる事で順位はいくらでも変動します。楽しみにしております。
- 動きの出発 ダンス言語を大切にしたユニークさがほしい。一方 強い世界感を持った作品も待たれる。決選に向けて整理して自作に向ってほしい。
- 創作を楽しんでいるように見えないのがもったいない。創造には生みの苦しみもあるが、やはり没入する快樂と解放がほしい。
- テーマをどのように展開するか、明確にする。いたつきポーズから、テーマを展開しているのに、スペースにすぐひろげてしまい、テーマがボケてきてしまう例がいくつかの作品にみられた。タイトルを頭の中だけで考えない事。作品のタイトル、テーマに同時代性をいれる工夫を。
- 今回、参加人数が少なく残念でした。皆さん、それぞれの世界があったと思いますが、テーマに対する、動きの生み出し方や時間、間など色々な効果の更なる追求を望みます。 ※自分の事を含めて！
- 厳しい環境状況のなか、創作にチャレンジされたことに敬意を表します。それぞれに工夫と努力は見えますが、もう少しこの作品をとおして何を訴えるのか、たとえば「タイトル」の意味がどう表現されたかを確認してみることも必要かと思えます。
- 今回はエントリー数が少なかったが、個性的な作品がやはり目をひき

ます。作家の世界感が、出てくるのが私は好きです。